

## 「会社は「公器」の意義は？」

平成 30 年 1 月 31 日

### ●影武者さんからの質問

＜会社は「公器」、の意義は？＞

会社は「誰のもの」と問われて、・・・一見トートロジーのように見えても、たとえば、一旦出資したら、もはやその資金は出資者のものではない「会社のもの」である、という他愛ない意味では、会社は「会社のもの」だと云えば済むのに、・・・「株主のもの」だと主張する者達に対抗するに、「会社は「公器」だ」、というのは、答えになっているのかどうか、と何やら「ズレ」を感じざるを得ない一面があるように思われる！「協議会」なるものがあるとのことで、その HP をちょっと覗いてみたものの、ほとんど何も分からない！！何となく、だが・・・「私とは何」と問うて、「社会的存在」だ、と答えたとした場合の、その「感覚」と似ている！！本当に問われているのは、「会社は誰のものか」ではなくて、ある「事業」は何のためにどのように遂行し、その事業にはだれが関与していて、その成果（これは単純に金銭的「利益」だけでない、「事業」を継続・持続すること自体である場合を含む、捉え方だと云っておこう、と思う）をどのようにするか、その意思決定を、関与している「誰何」がいったいどのように関与しているのか、と問う事であるはずだ、と思えてくる！！たとえば、原初出資者と株式「投資家」、創業者と経営者、事業自体の持続的展開と短期利益の稼得、・・・たしかに違いうだろう、・・・、それをどう扱おうとする「資本主義」なのだろうか？・・・「公益資本主義」とは！！

### ●西田昌司の答え

会社は事業を行うことで利益を出して、その一部を税金として政府に納めるわけですが、会社は税金を納めさえすれば後は利益を最大化することへの

み注力すればよい、という考え方があります、しかし、私はそれは通らないと思います。

JR は以前は国有鉄道でしたが、1987 年に分割民営化されて 7 つの会社になりました。JR 東日本・東海・西日本・九州の 4 社は上場を果たしましたが、その一方で JR 北海道・四国・貨物の 3 社は赤字体質で上場には程遠い状況です。JR 東海は新幹線のお陰で大変な利益を出していますが、その一方で赤字路線も抱えています。トータルでは黒字であっても、利益を追求する私企業の立場からすると赤字路線は当然のことながら廃線したいと考えるでしょうし、実際に民営化されてからは赤字路線がどんどんと廃線されて各地から悲鳴が上がっています。しかし、国民の足たる鉄道事業者はいくら上場したといえども純然たる私企業ではなく公企業としての性格が強いですし、公益の視点がそこにはあらねばならないはずです。

赤字企業の赤字路線であれば、国民の足を守るためにも国から補助金が出たりしますが、黒字企業の赤字路線となるとそこに補助金を出そうものなら国民からの反発も強いでしょうし、そんなものはその企業の判断に任せよ、ということになってしまいます。また、政府も均衡財政主義に陥ってしまっていて必要な補助金を出し渋るがために、赤字路線の利用客の多くが廃線の憂き目にあわないだろうかの恐怖にかられる状況となっています。民営化によってまさしく公益が激しく損なわれる事態を招いているのですが、このような状況を政治が放っておいて良いわけがありません。

JR を一方的に責めれば済むという問題ではなく、政府の側にも大きな責任があります。JR3 社は年 3000 億円程度の税金を納めていますが、政府は鉄道予算に年 1000 億円しか回していませんし、しかもそこから 750 億円を新幹線の整備にあてていますので、残りはたったの 250 億円しか残りません。これでは、赤字路線の維持や連続立体交差の建設といった必要な仕事を十分にできるはずがありません。3000 億円の税収があるのであれば、少なくとも 3000 億円はそういった必要な仕事に回すべきなのです。

私企業とはいえども、利益追求のみならず社会にいかに関与するかといった視点を持つべきですし、そうやって社会に貢献することを考えれば社会が豊かになって、長い目で見ると会社の利益にもつながるわけです。「経済」とは「經世濟民」の略ですし、「世を<sup>おさ</sup>め、民を<sup>すく</sup>う」の精神を政府が持たなければならないのはもちろんですが、会社の経営においてもそういった精神を持つ会社が結局は強いのです。

私が財政出動の必要性を強く訴えるのは、政府が世の中を助けることをしなければ経済など成り立つはずもないからです。政府の役割は、いかなる不測の事態（災害、疫病等）に遭遇しても国民を守ることですし、それがまさに經世濟民であります。そのような經世濟民の精神を忘れてしまって、財政再建を自己目的化する政府（今の安倍内閣もそのきらいがありますが）などはありません。また、税金さえ払ってれば後は利益追求あるのみという企業経営も結局は行き詰るものです。

「自利とは利他をいふ」という言葉通り、人様に奉仕したことが結局は自分に返ってくるものですし、皆がそういった公益を目指す社会でありたいものです。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>